

## やまゆり園実態解明を

## 障害者団体、知事に要望書

2016年に殺傷事件が起きた県立障害者施設「津久井やまゆり園」の支援実態を巡り、県の第三者委員会が中間報告をまとめたことを受け、障害者団体「DPI日本会議」などは25日、委員会による最終報告を作成し、県が設置する検討部のたたき台とするよう求める要望書を黒岩祐治知事に提出した。

要望書は、全国手をつなぐ育成会連合会、全国地域生活支援ネットワークとともに生きる社会」を考える神奈川集行委員会との連名。県が7月に設置を予



知事への要望書を県の担当者(右)に提出した障害者団体の関係者ら＝横浜市中区

定している「障害者支援施設における利用者目線の支援推進検討部会」には事件の背景と原因の究明が求められていると指摘。検討部会に知的障害者や家族を加え、委員会の最終報告を議論の入り口として公開で審議するよう求めた。

委員会は5月、一部の利用者に虐待の疑いが極めて強い行為が長期間行われていたとする中間報告を公表。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、かながわ共同会への聞き取りはできなかった。県は最終報告を待たず、委員会を改組して県立障害者施設全体を対象にした新たな検討部会を立ち上げるとしている。

DPI日本会議の担当者は「つやむやのままで終わらせないほしい。日本の障害者福祉の在り方を方向付けする案件であり、全国が注目している」と指摘。県の担当者は「検討したい」と応じ、検討部会に障害当事者らを加えると明言した。(石川 泰大)

## 広域

## 広域